861
80
1

関東を主とする酒造関係資料雑纂

清酒濁酒醤油鑑札収与并収税方法規則 七四

七十四

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1

ガラス使用

國立圖書館
昭 24. 3. 29 和
寄 贈

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1

ガラス使用

今般清濁酒其外銘酒類并醤油醸造取締方税則別紙御規則之通御確定相成候ニ付而ハ藩々之内

先ハ取調差出候牧納現石五ヶ年平均之内ニ組入有之分ハ

大蔵省ニ而更ニ可相渡候条従前ニ株數其外税金取立高共詳細ニ取調可申出此段相達候事

辛未
七月

太政官

清濁醬油醸造株鑑札渡方并税則之儀是迄一定之成規無之間、無鑑札ニ而自醸為致度向も有之哉之趣元来收税と其事を修治せんとするに要費ニ供せんとの儀ニ付右税則及取締方法紛雑の多しと雖も其弊害不少候ニ付今般改正の國内齊一を規則別紙之通確定相成候条自今以後無鑑札ニ而醸造不相成候間各管轄廳ニ於ても勿論徒ニ成規ニ違ひ犯違無之様各

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1　ガラス使用

取締可致事

辛未七月

太政官

今般清濁酒其外銘酒類并醤油醸造御定税則御改正被仰出従前之株鑑札都而廃止之旨し更ニ免許鑑札大蔵省租税司より引替可申渡旨ニ候ニ付従前之株鑑札都而廃止之旨し更ニ免許鑑札大蔵省租税司より引替可申渡旨ニ候ニ付従前之株鑑札之儀ハ不残府■県管轄廳おゐて取纏当未年十月限同司ニ可差出事

但鑑札壱枚毎ニ造人國郡村名前書小切ニ認メ且其管轄廳印を押シ鑑札ニ相添可差出事

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1　ガラス使用

一是迄分ヶ株ヶ唱ヘ壹株ヲ二所或ヲ三所ニ分ヶ有
者モ有之趣右ヲ自今禁止ノ事

一右分ヶ株ヲ以醸酒ノ為シ居ノ今般改而相願ノ
ヘ新規鑑札ヲ渡ノ留願人姓名書加添前同様可
差出事

一向後新規稼致度望之モ其管轄廳ノ願出
次第姓名其外前同様取調可差出事

一右免許鑑札而持ヲ者ハ来ル午ノ年ヨリ毎年造
ヲ手續ヲ其年造込元積石數ヲ定限無ク醸造
造ヲリ八月晦日限リ為申立各管轄廳ヘ届出
其年拂勘弁ヲ上醸造石數差引造高免許
鑑札ヲ渡ス節石數名前ヲ巨細認分ヶ
十月中大藏省租稅司ヘ可相届事
但當未年ヲ免許鑑札引換ノ節ヘ後ノ付従前ク

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』　請求記号 861-1　ガラス使用

株濫札ヲ以造込石数ヲ有之中立ヲ

一造高免許ニ鑑札年ニ稼人ニ不渡方、各管轄廳

おゐて、造込石数調届ヲ節

相渡ス申事

一免許前、造高免許料其外

綿密ニ簿冊ニ記入シ稼人毎個免許料何程

造込石数何程造高税何程ト各造人名面明細ニ

認譯ヲ調書右收税金ニ相添毎年々十二月限リ府縣共

直ニ大藏省ヘ相納ル申事

一管内善濫造ノ有之ヲ以テ別紙規則ニ従ヒ科

料可申付尤古手續ヲ調書ヲ以テ其節ヲ

相届事

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1　ガラス使用

右之趣管内無遺漏可相觸事

辛未
七月

民部省
大蔵省

清酒濁酒醤油鑑札収與并収税方法規則

第一則

一 新規免許鑑札願受クル者ヘ為免許料清酒ヲ
金拾両濁酒ヲ金五両醤油ヲ金壹両ヲ分完可相納
尤味啉白酒其外銘酒類ヲ清酒ニ通ス可キ事
但古鑑札引替ノ分ヲ免許料ヲ不及差出
一 免許鑑札ヲ来申年ヨリ毎年八月其管轄廳
おゐて相改ヲ申ヲ万一焼失流失或ヲ盗難ヲ申出ル者

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1
ガラス使用

有之節ハ事實取糺ノ上更ニ鑑札相渡ス可キ事

但燒失ノ節更ニ鑑札相渡ス儀願受ケ候ハヽ新規願ヲ免許料ノ半高上納可致ノ事

一造高ヲ多少ニ不拘清酒ヲ稼人一個ニ付金五両濁酒ヲ金壹両貳分宛當未年ヨリ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札改ヲ節免許税ヲ上納スヘキ事

但味醂白酒其外銘酒類ヲ清酒ヲ通造スヘキ事

一造方休業ノ者シ有之名モ當未年ヨリ十月來申年中ハ毎年八月鑑札ヲ改ヲ受可申其節免許税可相納事

一休業ノ者免許鑑札返納相願ノ分ハ免許税ニ不及ノ事

第二則

一免許鑑札賣買致度者ハ双方村役人ヨリモ連名ヲ

一 毎年八月免許鑑札改之節其年之造高ヲ
立造高免許之鑑札可相願事
但當未年ハ免許鑑札ニ引替ノ節ニ付漏ニ
可申立候申年ハ未ノ年渡置之造高免許鑑札
其年之造高ヲ別紙雛形之通ノ切ニ認ノ付紙シテ差出
附札ヲ造高ニ免許鑑札焼失ノ節ハ別紙
書面ヲ以可願出事

其管轄廳ニ願出不相當無之ハ其廳知ヲ
別紙雛形之通證紙證文致シ免許可致事
但買請人國郡村名前書相添管轄廳ヨリ
租稅司ニ可相届事

一 右鑑札賣買之節證印稅ヲシテ賣代金高百分
之二（但拾両ニ付永弐百文）相納可申事

第三則

一 右之如當年造込願高認添免許鑑札之八月限り差出候
おゐて其年柄を察し國内之惣造高ニ見比へ
詮議之上相定九月限別紙雛形之通造高免許
鑑札可相渡事
但本文鑑札ハ其管轄廳ニおゐて製造致し
候ら、心得ゐ事

第四則

一 清酒之造高改らして時宜見計管轄廳より
巡見造高相改可申事
但醤油之儀ハ五拾石以上造り出候ハ、相改事

一 濁酒を時ゝ醸造可致ニ付支配役人共ニおゐて見分
造込之節夜醸造人之村明役人共ニおゐて見分
いたし綿密ニ相改造高免許鑑札之數ニ不過

第五則

一清酒并銘酒類味淋白酒未生酒代金ニ付五分
但金百両ニ付五両　其前年ニ酒價平均ニテ為醸造
税毎年八月造高免許鑑札相願次節納金
高為書出十月中可相納事

一濁酒ニ右同断ニ付三分但金百両ニ付三両　前同断ニ振合ニテ納事

一醤油ニ前同断ニ付五厘但金百両ニ付代金五分　右同断ニ振合ニテ可
相納事

第六則

一免許鑑札無ニ自己ニ利益ヲ計リ高賣ニ為メ
密醸ニ等シキ者ニ於テハ其品取上清酒銘酒ニ
造高百石ニ付金弐拾五両ニ付金三分
濁酒并醤油ニ造高百石ニ付金弐拾五両ニ付金三分ヲ割
ニ科シ可申付事

一其年ニ造高免許鑑札不願請自侭ニ醸造致シ候者

於ハ弘ニ其醸造品ヲ勿論無印相渡置ニ免許鑑札

ヲ取上且為科料清酒銘酒類ヲ造高百石ニ付金拾両
壱石ニ付永百文ヲ割ヲ以取立可申事

濁酒并醤油ヲ造高百石ニ付金弐拾五両
壱石ニ付金壱分

一過造致シ候者ヲ其ヲ造ヲ分ヲ取上清酒銘酒類ヲ

造高百石ニ付金弐拾五両
壱石ニ付金壱分

濁酒并醤油ヲ造高百石ニ付金五拾両
壱石ニ付金弐分

ヲ割ヲ以科料可申付事

但取上ル諸品并醸造ヲ分ヲ入札拂可申付事

第七則

一右取締相立ル ニ付而ヲ向後規則ニ背キ候者

有之候者ヲ勘而定則ヲ科料金ヲ申付若又村町

役人ホニ而醸造人ヲ新ニ寄不正筋取計候又ヲ不正

筋ヲ名存見過シ候事ヲ於ハ顕ヲ相當ヲ

罰可申付事

一稼人共不正筋有之者ハ見附訴出候ハヽ其品ニ従ひ相當ヲ賞誉可有之事

一私鋳金并破上品拂代迄高百両ニ付五分通百一両ニ付三分通但百一両十六百両迄ハ五分ト一両ニ付三分ト二合セ五両永三千文ヲ割取扱候者又ハ所出ヲ表ニ褒美并為手當ニ可有之候間管轄廳ニおゐて相當ニ配給ニ致候事

右之通規則相定候間各管轄廳ニおゐて成規ニ照準ニ取締可致且収税及び私鋳金ニ係ル精細ニ調譯簿冊ニ記載し其年十二月中府ニ於て大藏省ニ可相納候事

但年文規則相立候ニ付而ハ諸入費ヲ府縣ニ於て年賦ニ上可申立事

辛未
七月

民部省
大藏省

用紙程村六ツ切之事

表面

筏何号

清酒造鑑札

何府支配何國何郡何村

何某

割印

裏面

濁酒醤油其外左之二倣フ

割印

年号
干支月

免許

大蔵省
租税司

印

釀造免許鑑札
賣買之節管轄
廳證印ノ雛形

割印

年号
干支月
免許

大藏省
租稅司
印

此釀造免許鑑札何國何郡何村誰
御定之通手數ヲ以買受候条相違
之ナキ也

年号
干支月

何府
縣廳
印

総員印

造高免許鑑札
雛形

表面

第何号

干
支 清酒何千何百何十何石造

何府
縣支配何國何郡何村
何某

裏面

割印

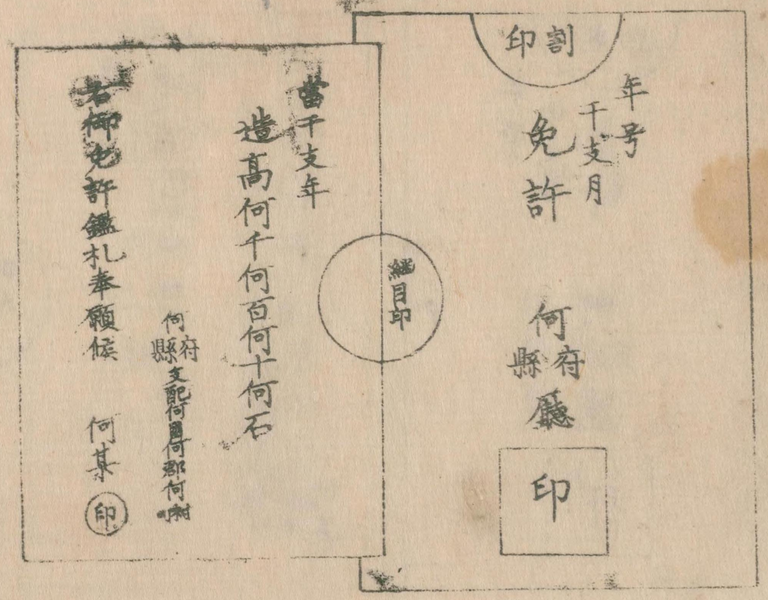
年号
干支月
免許

何府
縣廳
印

十三

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1　ガラス使用

其年造高免許
鑑札願振雛形



官板
御用御書物師

東京

日本橋通一丁目
須原屋茂兵衛

同
室町三丁目
紀伊國屋源兵衛

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1

ガラス使用

一廿五年度清酒醸造着手期日十一月
一日ト豫定ス
一酒造藏人給料左之通定ム
貳　番　拾四錢以内
三　番　拾貳錢五厘以内
下　人　八錢以上拾壹錢迄
一酒造臼人給料左ニ
壹　番　七錢五厘
貳　番　六錢五厘
下　人　六錢
右ハ明治二十五年十月一日組合會ニ
於テ決定候也
明治廿五年十月
紀伊郡酒造組合事務所

19950

国立国会図書館　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』 請求記号 861-1

ガラス使用

861
80
1

国立国会図書館　　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』　請求記号 861-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『[関東を主とする酒造関係資料雑纂]』　請求記号 861-1

ガラス使用